

ナチュレハニー誕生物語

安心・安全なココヤシの花蜜糖を求めて

ココヤシの花を束ねて根元を切断すると栄養豊富な花蜜があふれてきます。ココヤシ農園ではその花蜜を釜で煮詰め茶色の砂糖にしていました。

花蜜糖は東南アジアのいくつかの農園が手がけていましたが、添加物を入れないと大量生産できないといわれたり、すぐに湿って溶けたり、サトウキビなどの砂糖を混ぜていたり、というものばかりでした。

貧困で苦しむ現地に、農園とのタイアップで希望の光が・・・

数ヶ月経った頃、驚くほど素晴らしい品質の花蜜糖がマニラの健康食品店にあり、さっそく農園を訪ねました。そこは今でもゲリラや過激派による事件が多い地域にあり、地域行政と農家の集団が貧困撲滅プロジェクトで高品質の農産物をつくろうとしていましたが、当時はまだ、豊かな栄養に恵まれたココヤシ花蜜糖の価値を知る消費者はフィリピン国内にさえ少なく、まして海外にはほとんど知られておらず、販売は低迷しプロジェクトの資金は尽きかけていました。

農園経営者と話しているうちに、村や国に対する情熱と農園管理にかける意識の高さに生活科学研究会は託すことにしました。日本に輸出するために必要な衛生面や管理面での助言と投資を行い「ナチュレハニー」が誕生しました。

農園管理者達は敬虔なキリスト京都で毎晩7時には教会のミサに参加します。

ある日、一緒に夜のミサに参加した時に、経営者のひとりであるガーニーが涙ながらに言ったのです。

「人生にはうまくいく時も、うまくいかない時もあります。いずれの時も私たちは神様のご加護の中にあることを信じています。困窮する私たちに手をさしのべてくれた生活科学研究会を、心から神様からの贈り物だと思いましたよ」

生活科学研究会にとっても、愛にあふれる農園との出会いに神様からの贈り物となりました。